

霧島のゴルフ場造成工事現場 排水溝の清掃中

平成7年9月3日午前10時40分ごろ、始良郡霧島町永水の霧島国際カントリークラブ造成工事現場の調整池で、排水口につまった木切れなどを除去していた作業員3人が、排水口から噴出した大量の水と土砂に押し流され2人は途中で自力脱出、1人は約2キロ流され、水死体で発見されました

3人は同日朝から調整池の底に設けられた排水口（1.5メートル四方）に詰まった木切れや土砂を取り除くため、調整池の外側から池の底に通じている暗渠伝いに排水口の下に入り、棒やスコップで下から突ついていた。その作業中、障害物が大量の水とともに流出し、押し流されたらしい。

調整池には3日からの大雨で流木などが流れ込み、約2,400トンの水がたまっていた。3人は調整池の水かさなどを確認しないまま、排水口下で作業したため、「池の底の栓を抜く」形で濁流に押し流されたらしい。

以下の写真の撮影日は平成22年8月1日です。

洪水後一か月経過してもこの状態でした。平成9年の人身事故と同じです。原因は排水塔奥のオリフィスへ流れ込む金網の上端が開放されているからです。

オリフィスで流せないほどの雨量になりますと、貯水が開始され、さらに雨が続きますと排水塔から排水されます。この状態になった時に金網の上端から木屑、軽石が流れ込み43センチメートルのオリフィスを塞ぎました。状況は全く改善されていません。画像の上部に梯子とホースが写っています。これは洪水前からこの状態であったことを意味し、このような状況が常態化していたと思われます。

この後、前面擁壁から梯子を渡し、動力ポンプで排水が行われました。水が溜まったら動力ポンプで排水するなど、前代未聞の調整池です。

